

# 笑顔で駆け抜けた錦城ライフ

## 錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第476号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会

編集室 2025

みんなでつくる  
錦城高校新聞

### 60回生卒業式が挙行される。今号では、3月14日(金)に行われた60回生の「卒業を祝う会」の様子をお届けする。

本日、60回生の卒業式が挙行される。今号では、3月14日(金)に行われた60回生の「卒業を祝う会」の様子をお届けする。(編集部共同取材)



各々息の合った走りでの激戦を繰り広げる

60回生の卒業を祝う会は、3年生の進路内定者で主に構成された卒業を祝う会実行委員会が企画・準備から当日の運営・進行まで全て自分たちで行った。今年は宝探し、運動会、未成年の主張の三部構成。午前の企画では、クラスごとにポイントを集めて総合優勝を目指す。

### 60回生のみなさん卒業おめでとうございませう!!

3年間錦城高校新聞をご愛読いただきありがとうございます。これからのみなさんの活躍を心よりお祈りしています。

### 借り物探しに校庭を奔走

校庭に場所を移し、前生徒会長 山田拓仁さん(3E)の宣言で幕を開けた大運動会。まず借り物競争がリレー形式で行われた。お題には「カライコーン」「車いす」「A型で左利きの人」...

### パン食いで順位逆転??

運動会最後に行われたのはパン食いで順位逆転!! Cレースでは、馬のお面を被った弓道部や、ピンポン玉を運ぶ卓球部など、計4部活が参加した。...

### ネギを差し出し最後の告白??

苦戦しながらも楽しんでいく姿が印象的だった。これにて閉会かと思いきや、最後に全員でじゃんけん列車のポーンステージを楽しんで、運動会は幕を閉じた。

### 変身した姿を見られて嬉しかった

60回生の学年主任を務めてきた太田剛先生に話を伺った。卒業式を振り返って太田先生は一言「楽しかったです」と語り、続けて「60回生のみんながすべてをつくりあげた」と思うと感嘆の一言でした。

### 60回生最後の編集後記

3年間錦城高校新聞を読んでいた方がどうもありがとうございました。新聞委員会としての活動を振り返り、様々な方と関わらせていただき、多くの経験と学びが得られました。

次は部活対抗リレー。各部活が工夫したバトンや衣装で競った。Aレースは室内楽部や生物部などの文化部に加え先生チームが出場。吹奏楽部が鈴の音を響かせ、軽音楽部がギターを持って走るなど賑やかなレースで1位に輝いたのは、出席簿をバトンとした先生チームであった。

### 学年全員でじゃんけん列車



学年全員でじゃんけん列車

### 最後の行事を終えて

卒業を祝う会を運営した実行委員の筒井直生さん(3I)は、準備の時は不安だったけど、盛り上がりのおかげで、す」と笑顔で話してくれた。同じく委員の島田尚杜さん(3A)は仲間に向けて「感謝の言葉と、またみんなで集まりたい」と語り、委員の堀田翼さん(3A)は「みんなで一緒に過ごせてよかった。ありがとう」とメッセージを送った。

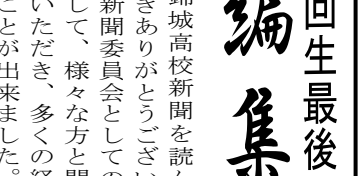
### 感謝を込めて最後の贈り物を

入り口から卒業生へのお祝いの気持ちを「僕だけで完成するのではなく、在校生の多くの方に協力して貰いたいと思いました」と話すのは、今年度の装飾を計画、担当した生徒会副会長の神田陸翔さん(1E)だ。神田さんは、例年作成しているお花紙の装飾に加え、これまでになかった風船での飾り付けを提案した。

### 一つ一つ、心を込めて飾りつけ

ききました、と想いを語る神田さん。感謝とお祝いの意を持って作ったものが3年生に伝わったら幸いです、と話した。華やかなお花とバルーンアートで飾る卒業式では、1年生は黒板アートを、2年生はみんなで作った花を下駄箱に貼る作業を担当した。今回、下駄箱の装飾をしていた2年生の恩田紅亜さん(2E)は、「先輩方が最後に気持ちよく下駄箱を開けられるように、華やかにすることを意識しました」と工夫を教えてくださいました。

### 教室では黒板アートがお出迎え



教室では黒板アートがお出迎え

も刺激になり、大切な経験になりました。紙面を通して伝えていた錦城高校と錦城生の姿が、皆さんの充実した高生活の一部として刻まれていくように感じています。(副委員長)

### BREAKING NEWS

直近に起きた錦城のニュースをお届け!



↑11月～2月初旬、錦城の入試期間中に昇降口にて、61回生がスキー修学旅行に行っている間、書道同好会の1年生と3年生が制作した。制作者の一人である白畑礼さん(1F)は、「受験生の人に向けて応援の気持ちを込めて書きました」と思いを語った。

### 60回生の成長を振り返る

「一人が企画してもずれると思っている、盛り上がりを作ることもなく100%やり切った中で時間内に収めていたことがすごいなと思いました」と話す。60回生の思い出を聞くとき深く考え込み、嬉しく振り返る漫才や、将来の幸せな家庭を誓い合ったカップルなど、様々な思い出が語られた。最後に錦城高校での生活を振り返る映像や先生からの卒業メッセージが流れ、場は笑い感激に包まれた。

### 60回生最後の編集後記

3年間錦城高校新聞を読んでいた方がどうもありがとうございました。新聞委員会としての活動を振り返り、様々な方と関わらせていただき、多くの経験と学びが得られました。

### 60回生最後の編集後記

これまで新聞制作に協力してくださった先生方や錦城生の皆さんに、この場を借りて深く御礼申し上げます。錦城生やその保護者の方々からの温かい励ましや紙面に対するお褒めの言葉をいただくことが私たちの力になっていました。これまでもご愛読に心から感謝申し上げますとともにこれからもご愛顧のほどよろしくお祈りいたします。(委員長)

### 60回生新聞委員会

編集委員一同

~61回生修学旅行~

# IT'S A SNOW WORLD

~白銀の世界に包まれて~

## 61回生蔵王スキー修学旅行

3年生の入試期間中、錦城では修学旅行や合唱祭など様々な行事が行われた。裏面ではそれらの様子をダイジェストでお届けする。

### 初心者コース

「坂で止まらない」「カーブで滑る」「リフトで失敗して玉突き寸前」…T4班は、転倒だらけの初日から始まった。初めてリフトに乗りアス

トリアゲゲレンデを滑った午後、急な斜面に班員は絶叫の嵐。転んだときはお互いに手を差し伸べて、何とか下まで辿り着くことができた。

最終日は、なんと中級者向けのコースも滑走！腰が引けていた初日は打って変わって、リフトを乗り継ぎ、コースをスイスイ進んだ。「まさか、ここまでできるようになるなんて」と、班員は成長に驚きと喜びでいっぱいだった。

滑り、直線で滑る際には少しずつスピードを出して楽しんで。吹雪の中でも前を見てしっかりと下る感覚に、班員たちは大興奮。

三日間の錦城生の成長を見守ってくれたインストラクターさん。今回、T4(初心者)班を指導してくださった平良木勝彦先生にお話を伺った。



吹雪の中でも元気にスキー!

蔵王名物「樹氷」の前で樹氷ポーズ☆(Z7班)

「下手でもいい!笑いがあらずのスキーは最高だと思えますね!」と平良木先生。錦城生に向けて「60周年と言わず、末永くスキーを続けてもらえたらいいと思います」とメッセージを送ってくださいました。



「笑いがあらずのスキーは最高!」

中級・上級者班であるZ7班。蔵王でのスキーが初めてという人が多かったこともあり、1日目は初級者コースで十分に足慣らしをしてから中級者向けのゲレンデへ。木々の間を縫って進むリフトからの銀世界に、何人もの生徒から感嘆の息が漏れた。

時から欠かさず本校生徒にスキーを教えている。錦城生の印象について「他校では知らないふりをする生徒も多いいですが、錦城はいい雰囲気です」と話しているところへ感動します」と話す。錦城への指導だけは「来た」と

### 61回生修学旅行

#### 一日目震災学習〜門脇小学校〜

## 被災した小学校を訪問 現地だからこその学び

5日間にわたって行われた修学旅行の初日には、全12クラスを2つのグループに分けて、震災学習が実施された。今回はそのうちのひとつ、宮城県石巻市の海辺にあった旧門脇小学校を訪れた私たちのグループの様子をお届けする。



火災で焼け残った門脇小

部の石川芳恵さんの案内で石巻市の復興記念公園と震災遺構の旧門脇小学校周辺を、震災前と震災後を撮影した写真の入りながら見学した。写真と比較していく中で、被災前は全くと違う街並みだったことに驚くことが多かった。旧門脇小学校は、津波の被害よりも火災の被害が大きく、残され

た壁や天井に火災の猛威が残されていた。さらに石川さんが実際に避難した裏山の高台、伝承交流施設の「門脇」で当時の様子や教訓を学ぶことができた。

「この学びを無駄にしない!」一通りコースをめぐった後、石川さんに取材に応じていただいた。震災当時、石川さんは高台に避難し無事だったものの、飼っていた犬を亡くされた。2年前に語り部として活動を始めたが、それまでは震動のつらい思い出に背を向けてきたそう。だが時間とともに傷の癒えない遺族に代わ

り、自分が語り継いでいくという決心ができたという。普段の活動では、自分の言葉で「言葉に詰まったとしても、ありのままを伝えるようにしています」と話す石川さん。東日本大震災のことを「地獄」と振り返り、「地獄と言うと大げさにも、嘘っぽく聞こえてしまうかもしれないですが、そうとしか言えないんです」と語る。それでも「この学びを絶対に無駄にはしないで」と力を込め、錦城生に向けて「周りの人も守れるよう、命を大切に生きていってください」とメッセージをくれた。

### ~2024年度合唱祭~

## クラスの合唱を引っ張る先導者 最優秀指揮者・伴奏者 ~1年生編~



「ここまでついてきてくれてありがとう」

### 「素直にうれしいです」

伴奏者賞を受賞した徳永清香さん(1C)は、「素直にすごく嬉しいです」と感想を話す。中学1年生のときにも弾いた経験があるという「旅立ちの時~Asian Dream Song~」だが、弾きなれた曲だからこそペースが速まってしまう苦勞もあったそう。

しかし、本番ではずっと指揮者の尾崎仁美さんや歌っているみんなの方を見ることができて良かったと、語る徳永さん。尾崎さんと応援してくれたクラスメイトに向け、「みんな本当に歌が上手で、だからこそ伴奏にも集中できました。ありがとうございました!」と感謝のメッセージを送った。



クラスメイトを見ながら伴奏した

(普・蘭)

ここでは、2024年度合唱祭にて1年生の最優秀指揮者・伴奏者賞に選ばれた2名を紹介する。

### 伝わる指揮を心がけて

指揮者賞に輝いたのは平田惇樹さん(1I)。中学3年生の時と同じ『証』の指揮を担当したそうで、平田さんは「中学の時よりもうまくできてリベンジできたと思います」と笑顔で話してくれた。みんなに伝わりやすい指揮を心がけたという平田さん。練習では前に立っているからこそわかる客観的な改善点を積極的に共有することを意識したという。クラスメイトに向けて「至らない所もあったと思うけど、ここまでついてきてくれてありがとう!」と語った。

## 歌声がたつた今こそ咲き誇る 2024年度合唱祭

2月25日(火)にたましんRホールで開催されたISURUホールで開催された合唱祭。ここでは合唱祭当日の様子をお届けする。

合唱祭実行委員長長の川嶋真央さん(2I)の「ただ一つ!」という言葉で開幕した今年の合唱祭。今回初めて導入されたスマートフォンの動作確認を経て、「キセキ」の全体合唱が行われた。日頃の成果を発揮させる舞台の開幕に錦城生はワクワクしている様子だった。

閉会式の前には、1年生の音楽クラス全員による『ハレルヤ』の合唱が行われた。200人以上に及ぶ大勢の壮大で迫力のある合唱がホール全体を包んだ。閉会式では審査チームの増吉純平さん(2F)による結果発表が、全校生徒の拍手と共に行われた。受賞クラス及び各学年から1名ずつ選出された指揮者賞・伴奏者賞が発表され、会場は大きな歓声に包まれた。最後に合唱祭実行委員長長の岩井潤和さん(2H)から生徒への感謝と終わりの言葉が述べられ、合唱祭は幕をおろした。

1年生の部で銅賞を獲得した1Cは「旅立ちの時~Asian Dream Song~」で力強く美しい歌声を披露。強弱や高音などを見事に歌い上げ、壮大な響きで会場を包み込んだ。銀賞に輝いた1Eは「Laughter」

2年生の部で銅賞を獲得したのは「あなたへ」旅立ちに寄せるメッセージ」を歌った2F。2年生の部最初の出

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

2学年の部金賞と総合優勝に輝いたのは「愛の花」を歌った2B。緩急のついた一体感

## 大会報告

### 生徒会動静

1.9~2.20

▽ソフトテニス部

12月27日

第65回 東京都高等学校ソフトテニスインドア大会 出場

▽1月9日(木)

HR委員会

▽1月10日(金)・20日(月)

合唱祭実行委員会

▽1月21日(火)

体育学芸委員会

▽2月4日(火)

委員長会

▽2月20日(水)

代議員会